

“鍛えて、ほめて、伸ばす！子どもの可能性”
 ～「鍛ほめ福岡メソッド」展開中！～



福岡教育事務所・社会教育室

事業報告	令和5年度福岡教育事務所管内「家庭教育支援セミナー」	
期日	令和5年6月28日（水） 13：30～15：30（受付13：15～）	
参加者	16名	
日程		
	時 間	内 容
	13:15～13:30	【受 付】
	13:30～13:35	【開会行事】
	13:35～13:45	【説 明】「本セミナーの趣旨と進め方について」 福岡教育事務所社会教育室 社会教育主事 豊田 勇
	13:45～14:30	【講 話】「当事者に寄り添った家庭教育支援のあり方」 カウンセリングスペースやどりぎ セラピスト 橋本 茉旺 氏
	14:30～14:40	【休 憩】
	14:40～15:25	【質疑応答・協議】「当事者に寄り添った家庭教育支援のあり方」
	15:25～15:30	【閉 会】
活動の実際	【講 話】 はじめに、カウンセリングスペースやどりぎでセラピストをされている橋本茉旺氏に「当事者に寄り添った家庭教育支援のあり方」と題して、講話をしていただきました。 橋本氏は、ネット・ゲーム依存をはじめ、各種依存症、引きこもり、発達障がい等の相談、ネット・ゲーム依存からの回復プログラムや家族支援に取り組まれています。また、臨床心理士、公認心理師とし	
	 【橋本氏による講話の様子】	

て心理学講師やスクールカウンセラーとして教育現場で学校臨床を行われています。橋本氏のこれまでの経験と専門性をもとに、依存症や引きこもりに悩む当事者の心の状態、心の状態を不調から健康にしていくための支援の仕方、その際に当事者の方とかかわるときのポイントについても丁寧にお話しいただきました。

参加者のアンケートの中に、「当事者の方に寄り添う際の重要なポイントをおさえることができた。」「相談すること＝自尊心の脅威という言葉が心に残った。相談を受けるものとして常に頭に入れて対応したい。」など、専門的な知識の広がりを感じられる感想が多くありました。

【協 議】

まずは、「それぞれの立場で、どのような当事者に寄り添った支援が行えるか。」

「他の機関とどのような連携を行いたい
か。」の2つの柱でグループ協議を行いました。参加者の方は、同じ職種のグループに分かれ協議しました。「当事者だけでなく支援者に対しても場所の提供をしている。」「相談しやすい医療機関を紹介できる



【グループ協議の様子】

ようにしておく。」など、同じ職種で他の市町の方と協議することで、共通点だけではなく、情報の共有や横のつながりづくりができる協議となりました。

次に、グループで協議した内容を全体で共有するための時間を設けました。それぞれの職種での当事者に寄り添った家庭教育支援のあり方の確認と、そのために他の機関とどのような連携が行えるかという支援体制づくりについて考えることをねらいとしました。実際に、当事者とかかわる支援員、相談員、指導員のグループとソーシャルワーカー、スクールカウンセラーのグループとの連携の可能性や、その方々の研修の機会を作り出そうとする行政のグループなど、他の機関とどのような連携が行えるのか様々な可能性を見出すことができる協議となりました。

参加者のアンケートにも、「それぞれの立場から連携できることを出せたのでよかった。」「教育行政という立場として、個別というより団体やまとまりに対しての取組を考え、工夫しないといけないと感じた。」など協議のねらいにせまるような感想がありました。セミナー終了後にお互いの連絡先を交換し、今後のつながりを大切にしようとするグループも見られました。

全
体
を
と
お
し
て

アンケートの感想に、「自分の取組の意義を改めて考えることができた。」「学校の先生等に知っていただくことでお互いにとっての解決の糸口が見つかると思いました。」などがあり、それぞれの立場で当事者に寄り添った家庭教育支援のあり方について考えることができたり、今後の取組のヒントを得ることができたりしたのではないかと考えます。

福岡教育事務所といたしましても、この研修会後も、参加者が学んだことを一つでも実践していただけるように引き続き支援を行っていきたいと思います。

